

平成 8 年度

病害虫発生予察情報注意報（第 1 号）

平成 8 年 6 月 1 0 日

東京都病害虫防除所

病害虫名：チャバネアオカメムシとクサギカメムシ

1．対象作物 ナシ、ブドウおよびキウイフルーツ

2．発生量 多い

3．注意報発令の根拠

(1) 予察等への飛来の急増

チャバネアオカメムシ

	5 月						6 月					
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
過去（8 年間）	1	2	3	1	3	1	2	15	7	7	29	21
の最多誘殺数												
本 年	0	0	0	0	0	8	15					

クサギカメムシ

	5 月						6 月					
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
過去（8 年間）	0	2	1	0	0	0	1	1	1	2	8	2
の最多誘殺数												
本 年	0	0	0	0	0	6	5					

(2) 寄主植物での捕獲調査

6 月 6 日に農業試験場内の各種寄主植物で捕獲調査を行ったところ、サクラ、セイヨウザイフリボク、ヨーロッパシラカバ、ヒメシャラ、クワなどの実を吸汁中の上記 2 種が多数捕獲された。

(3) ナシ園への飛来情報

立川市及び稲城市のナシ園で飛来、幼果を吸汁しているとの情報が寄せられた。

(4) 今後の発生

現在の越冬成虫は 6 月下旬まで産卵を行い、幼虫期を経過後新成虫は 7 月に羽化する。

4 . 防除対策

(1) カメムシ類は園外より飛来して果実を吸汁加害するので、園内及び周辺の寄主樹木（主にサクラ、クワの実）や街灯への飛来を観察する。

(2) 一斉防除をすると効果が高い。

(3) 網目 9 mm の多目的防災網の設置は効果的である。

(4) 発生が認められる園では、次のいずれかの薬剤を散布する（数字は上から、希釈倍率、収穫前使用期間および使用回数）。

薬 剤 名	ナ シ	ブドウ	キウイフルーツ
スチオン水和剤 （有機リン）	800～1,000倍 14日・6回（有袋） 21日・6回（無袋）	800～1,000倍 21日・2回（大粒） 21日・1回（小粒）	
ミチオン乳剤 有機リン）	1,000倍 14日・6回（有袋） 21日・6回（無袋）	1,500倍 21日・2回（大粒） 90日・4回（小粒）	
スプライト水和剤 有機リン）	1,500～2,000倍 7日・3回（有袋） 45日・2回（無袋）	1,500倍 14日・2回	1,500倍 60日・3回
スミディ水和剤 合成ピレスロイド 有機リン）	1,000～1,500倍 21日・3回		
アグロリン水和剤 合成ピレスロイド	1,000～2,000倍 7日・5回	1,000～2,000倍 7日・5回	
アディオン水和剤 合成ピレスロイド	2,000倍 14日・3回		2,000倍 7日・5回

スカトフロアブル 剤	1,500～2,000倍	2,000倍	1,500～2,000倍
合成ピレスロイド*	前日・5回	21日・3回	前日・5回
- - - - -	- - - - -	- - - - -	- - - - -
ディ水和剤	1,000倍	2,000倍	
合成ピレスロイド*	7日・3回	30日・2回	
+ - - - - +	+ - - - - +	+ - - - - +	+ - - - - +

+ - - - - +	+ - - - - +	+ - - - - +	+ - - - - +
薬 剤 名	ナ シ	ブドウ	キウイフルーツ
- - - - -	- - - - -	- - - - -	- - - - -
マブリック水和剤20	2,000倍	8,000倍	2,000倍
合成ピレスロイド*		30日・2回	7日・2回
- - - - -	- - - - -	- - - - -	- - - - -
テルスター水和剤	1,000倍		
合成ピレスロイド*	30日・3回		
+ - - - - +	+ - - - - +	+ - - - - +	+ - - - - +

注 1) ピレスロイド系薬剤は、蚕に対する毒性が強く、長期間影響を及ぼすため桑園付近では絶対に使用しない。

注 2) ピレスロイド系薬剤の散布はハダニの異常発生を助長する場合があるので、有機リン系とのローテーション散布を行う。